

携帯電話を含む小型家電の効率的リサイクルに関するユーザーの意識構造の考察

神戸山手大学 正会員 ○和田 有朗
神戸山手大学 正会員 中野加都子

1. はじめに

使用済み小型家電のリサイクル推進については、環境省は昨年末に、市町村が中心となって促進型でリサイクルを進め、国が認定する事業者が広域回収を実施することを旨とした制度案を示した。しかし、可能な地域から全国に拡大することをねらっており、望ましいリサイクルシステムはまだ確立されていない。本研究では、前回¹⁾に引き続き携帯電話の回収を目的としたイベントにおいて行った携帯電話を含む使用済み小型家電に関するアンケート調査²⁾に基づいて、今後の使用済み小型家電の効率的なリサイクルシステムの構築について考察を行う。

2. 調査の概要

使用済み小型家電のリサイクルシステムを構築するための基礎資料として、前回調査¹⁾に加えて携帯電話の回収を目的としたイベント来場者を対象としたアンケート調査を実施した。内容は現状での小型家電に対する意識、小型家電の回収・リサイクルについての要望や意見、携帯電話の所有や退蔵状況及びリサイクル・リユースに対する考え方、中古携帯の利用の意志、動向等である。本アンケート調査は、(財)ひょうご環境創造協会内に設置されているひょうごエコタウン推進会議と筆者らの大学が共同で行ったものである。回答枚数は994枚である。

3. 使用済み小型家電回収に対するユーザー意識の差異

(1) 回答者の属性 (表-1)

男性が多く約6割であり、年代別には、50代が最も多く、次いで40代となっている。さらに、60代、30代、10代、20代となっており、それらはほぼ同じ割合を占めた。職業別には、会社員が最も多く、学生と無職(主婦、高齢者含む)がほぼ同じ割合を占めた。

(2) 希望する小型家電の回収場所 (年代別) (図-1)

「コンビニ」「スーパー、ホームセンター」が過半数を超え、次いで「家電量販店」「自治体の資源回収」「公共施設等(公民館、市役所等)」の順となった。また、年代別でみると10代、20代、30代、40代、50代では「コンビニ」を希望する人が最も多く、60代では「スーパー、

ホームセンター」、70代以上では「家電量販店」を希望する人が最も多かった。70代以上を除く全ての年代において「コンビニ」と「スーパー、ホームセンター」といった身近な生活圏内での回収を希望する傾向がみられた。

(3) ユーザーの負担金額 (図-2)

回収・リサイクルにかかるコストに対し、ユーザーの負担する金額は小型家電1点あたり100円以下、300円、500円の負担を望む回答が合わせて約8割を占めている。

また、年代別には全ての年代を通してこの3つの金額が最も多く支持されている。ユーザーの負担金額は、小型家電というイメージの中では、1点あたり500円までが1つの負担の境界となっている。

表-1 回答者の属性

性別	男性	62%	職業	学生	17%
	女性	38%		会社員	37%
年齢	10代	12%		公務員	9%
	20代	12%		団体職員	5%
	30代	15%		自営業	5%
	40代	19%		パート・アルバイト	8%
	50代	20%		無職	15%
	60代	16%		その他	4%
	70代以上	6%			

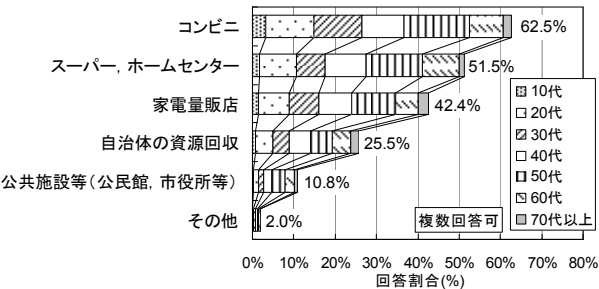


図-1 希望する小型家電の回収場所 (年代別)

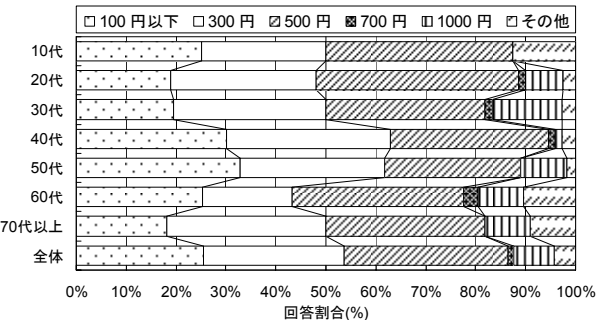


図-2 ユーザーの負担金額

キーワード 小型家電リサイクルシステム, 携帯電話, 負担金額, 個人情報, リユース

連絡先 〒650-0004 神戸市中央区中山手通6丁目5番2号 神戸山手大学現代社会学部 TEL078-371-8000

4. 携帯電話のリサイクルのための条件の関連分析

(1) 買い換えるまでの年月 (図-3)

携帯電話のユーザーは7割以上の人が3年以内に新しい機種に買い換えており、スマートフォンのユーザーは約7割が2年以下に新しい機種に買い換えていることが明らかになった。

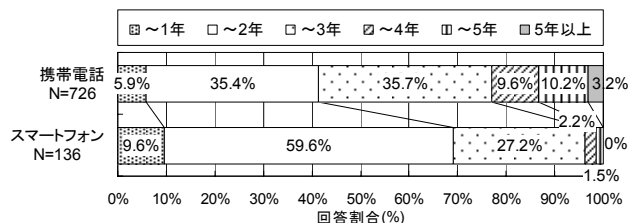


図-3 買い換えるまでの年月

(2) 買い換え時の古い機種の処分方法 (図-4)

約7割の人が捨てずに持っていると回答している。この結果は中古の携帯電話のリユース及びリサイクルの可能性のあることを示唆している。また、捨てずに持っていると回答した人の理由を図-5に示す。捨てずに持っている人の大半はなんとなく持っているという人(45.6%)が非常に多く、次いで「個人情報が悪用されないか不安なため」「目覚まし時計として使用」「メールデータの保管」という結果となった。これらをすべて合わせると捨てずに持っている人の約7割を占め、これらに対応できれば回収が可能になると考えられる。これらの回答から特に個人情報の流出に関する懸念が多いことがわかった。

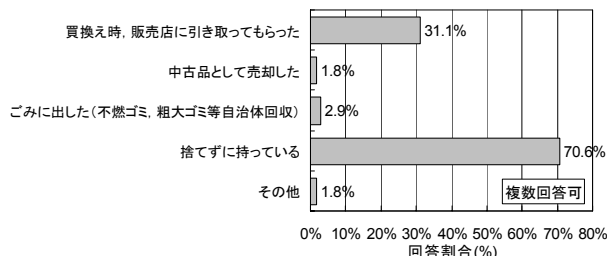


図-4 買い換え時の古い機種の処分方法

(3) 個人情報の消去・漏洩防止の方法 (図-6)

最も多かったのが「携帯にパンチなどで穴を開け、読み出せないように破壊する」で全体で約45%であった。この方法は物理的に基盤を破壊して読み込み不可能にする方法であるため、本体をリユースすることは難しくなり、部品リユースのみ可能となる方法である。一方で「携帯を破壊せず、データの上書きにより完全消去する」「特に気にしない」の二つの項目を合計すれば約5割となり、非破壊的に携帯をリユースできる可能性も示唆される。年代別では、年代毎の傾向はあまりみられなかった。回収者によるきちんとした説明により個人情報の消去について排出者の理解を得ることにより、携帯を破壊することなく回収することへの意識向上に繋がると考えられる。

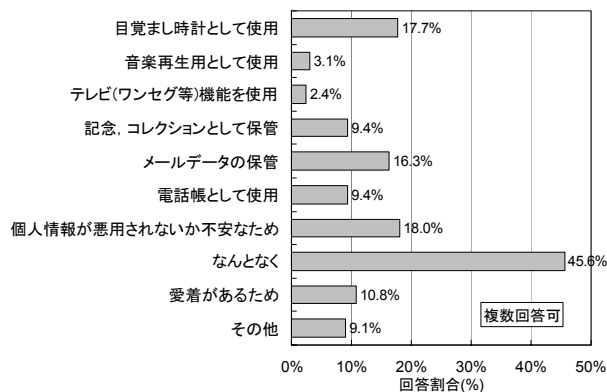


図-5 捨てずに持っている理由

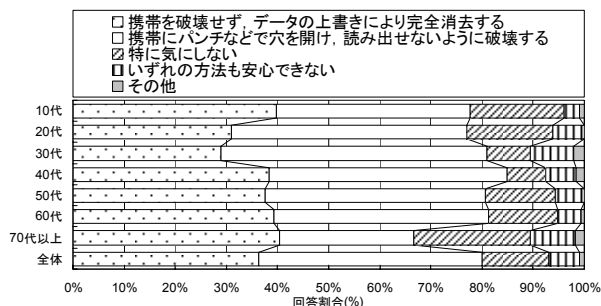


図-6 個人情報の消去・漏洩防止の方法

5. まとめ

本研究では、ユーザーを対象としたアンケート調査に基づいて、今後の使用済み小型家電の効率的なリユース・リサイクルシステムの構築に必要な条件を分析し考察を行った。得られた結果を以下に示す。

- 1) 小型家電の回収について、ユーザーは自治体回収よりも身近なコンビニ、スーパー、ホームセンターでの回収を望んでいる。
- 2) ユーザーの小型家電の回収・リサイクルへの費用負担は1点500円までが8割を占めている。ユーザーにリサイクル費用の負担を求める場合は1点の費用負担を

500円までの範囲で考えていく必要性が示唆された。

- 3) 携帯電話のユーザーは、3年以内に7割の人が新機種に交換している。なんとなく退蔵している人が半数近くになっており、「なんとなく」退蔵している人にリサイクルを促す契機を与えると回収が進むと考えられる。

参考文献

- 1) 和田有朗, 中野加都子: 使用済み小型家電リサイクルに関する使用者の意識調査に基づく考察, 土木学会論文集 G (環境), Vol.67, No.6, pp.11-18, 2011.
- 2) 中野加都子: 消費者の視点から見た小型家電の効率的なリサイクルに向けて, 月刊廃棄物 Vol.38, No.2, pp.18-22, 2012.